

R 元. 7. 26 町民センター意見交換会

出席者 25 人

町教育委員会：森教育長・原教育委員

事務局：黒石教育部長・下條教育総務課長・竹本教育総務班長・永井指導主事・
寺口指導班長（書記）

1. 開会

18:00～

2. 挨拶

森教育長から

3. 説明

- ・原道子教育委員 「小中一貫教育とは」
- ・大原学院の VTR を視聴
- ・永井指導主事 「二宮町小中一貫教育校設置計画案について」

4. 意見交換

論点①「教育内容とスケジュール」

越地地区住民：導入を検討するにあたっての基本的な考え方として、地域との関係性を大切にするということで、研究会は発足したと思うのですが、その時に小学校の保護者にもアンケートがあり、その中に各小学校区には学校を残すということだったと思います。それなのに、今回の計画案では、山西小学区からは学校がなくなりますが、なぜ話し合いの中でなくすということになってしまったのでしょうか。

部長：研究会が始まる時に、各小学校区に1つは学校を残す、単級化の解消、地域との関係を十分考慮する、施設は既存の学校を使うなど、8つの条件を前提に検討しました。令和12年をめどに山西小学校が一色小学校に統合という案を示させていただきましたが、10年の間は各小学校区に学校を残します。段階的に小中一貫教育を目指していきます。当面は分離型の小中一貫教育を行いますが、効果を考えると、最終的に施設一体型の方が教育的な効果は大きいということで、児童・生徒数の減少なども考慮に入れながら、施設一体型の小中一貫教育校を目指すという計画案をたてました。

越地地区住民：小中一貫教育はいいと思うのですが、通学距離が遠いと子どもを通わせるのは本当に大変です。朝は早く起きて、帰ってきたら夏場などは顔が真っ赤になっています。小学校1年生の子どもが山を越えて通学するのは厳しいと思います。親が納得をするような形で小中一貫教育を進めていただきたいです。1時間以上もかけて通わせて、家に帰っても遊ぶ時間もないのではないのでしょうか。登下校だけでとても無理だと思います。

教育長：どうしてこのような案を出したかという、今いる子どもたちを分けるのはよくないと考え、このような案を出したのですが、皆様の意見を聞かせていただき、山西小学校を一色小学校に統合するとしたら、遠すぎるので、山西小学校では遠すぎるので、二宮小学校にした方がいいのではというご意見がありましたら、ぜひ聞かせていただきたいです。通学の方法もスクールバスを使うことも含めて考えたり、また学区を変えて一色小ではなく、二小に通うことも含めて、検討していきたいと思います。あくまでもこの計画は案ですので、皆様から色々なご意見をいただきたいと思います。

越地地区住民：二宮中学校に子どもたちを集めるということに関しても、防犯上から怖いと思います。津波のことを考えると一番海に近い学校で、老朽化も激しいのに、そこに子どもたちを集約するというのは危険だと思います。子どもたちを守るための学区再編を考えていただきたいです。庁舎の説明会のときにも、津波がきたら防災上問題があるということを説明していました。防災のことや子どもの命を守るためのことを最優先に考えてほしいです。

百合が丘地区住民：義務教育学校は小中の免許状をもっていないといけないと文科省は言っていると思うのですが、暫定的に教えることが出来るとは聞きました。制度上、小中両方の免許状を持っている人は教育学部の人だと思います。教育学部の人だけが小中一貫校を担当することになり、そのことは目標や目的と合致するのでしょうか。

教育長：義務教育学校は小中両方の免許を持っていなければいけませんが、二宮町では施設一体型の小中一貫教育校を目指しています。小学校の部分も中学校の部分も残しているのですが、中学校の教員が小学生を教える場合は、自分の教科しか教えることが出来ません。また、小学校の先生は中学校の免許を持っていない限り、中学生を教えることは出来ません。9年間の見取りの中には、生活指導や、支援教育などにも力を入れたいと考えています。中学校の先生は支援学級の担任を持ちつつ、自分の教科も持っていますし、中学

校は教科担任制ですので、教科によって先生が変わってしまい、小学校のように手厚い指導をすることが難しい状況です。そのようなところも小中一貫教育で補うことが出来ると考えています。

教育委員：両方の免許を持っている人は少ないと思いますが、チーム・ティーチングと呼ばれている先生二人で行う制度を取り入れて、ペアで授業を行うことによって、教科担任制が生かされていると思います。

百合が丘地区住民：二宮町の教職員の異動は限られたものになっていると思います。

教育長：人事交流は、教育交流ということで、二宮町だけではなくて交流を行っています。

論点②「学校の場所と施設」、論点③「学区・地域」

中里地区住民：学童はどのようになるのでしょうか。小学校に今は併設されていて、子どもたちの移動もなくて、とても便利です。小中一緒になった場合、校庭の使い方はどうするのでしょうか。校庭に遊びに来ている子どもたちはどうするのでしょうか。移行期間は今の体育館・グラウンドなどは対策するのでしょうか。

部長：学校に学童があるのが、利便性があると思います。例えば山西小学校がなくなっても学童を置くことは出来るのですが、移動距離が出てきてしまうので、それも考えなければいけないと考えています。中学校と交代にやるということも考えていかなければいけないと思います。

中里地区住民：体の大きさが全然違うので、けがなどをしないように検討をしてください。

緑が丘地区住民：今の時点でも学校のカラーがあり、他の学校に通いたいと考えている保護者もいます。町内の中で、学区の廃止は検討しているのでしょうか。小中一貫教育のデメリットはあるのでしょうか。施設上の移行をするのに小中一貫校の制度が整ったので、移行するのと、時期はどのように見極めるのでしょうか。

部長：学区の廃止は前から検討してきました。山西小学校の変更が一番最近の変更したものとなっています。建物と制度の移行の準備が整ったとの見極めですが、建物はこれから調査を行いますので、それは調査の結果を見て見極めます。制度は分離型は令和4年を目指して行いたいと思っています。その間に意見交換会などを行い、理解を深めていただきたいと思います。

教育委員：失敗例は色々あります。小学校と中学校の先生の意識は違いますからまずは教員の意識改革が必要です。ですから、今年度も教職員・町民を対象とした8月9日に研修会を行います。地域の方にもみんなで子どもを育てていきたいという意識を持って参加していただきたいと思います。

課長：大原学院の校長先生と学校運営協議会委員の方をお呼びして行う研修会ですが、申込制で先着50名で研修を行います。8月9日の13時からですので、興味のある方は教育総務課へご連絡ください。

下町地区住民：一色小学校の単級化は12年後まで解消されないようですが、それは子どもたちにとって最適なのでしょうか。児童のことを考えたときに、古い校舎を改修して使わずに、新しい校舎を建てて、小学生だけを集めるということは考えていないのでしょうか。そして、人数が減ってきたときに、中学生も一緒にして、小中一貫教育を始めるということは考えてないのでしょうか。子どもにとっての環境を考えると、古い校舎を直してまで使うのがいいのでしょうか。教室でも雨漏りをしているのが現状です。直してもそんなに長い間使えるのでしょうか。中学校は、受験を控えていて、その子どもたちがいる校舎で工事を行って、受験に影響は出ないのでしょうか。

部長：色々な選択肢があると思います。子どもたちによりよい学習環境を作りたいということを第一に考えているのですが、一方で今の施設を有効に使うという町の考え方もあります。このような案を提案させていただいていますが、新しい学校を作るのも1つの案ではあると思います。ただし、学校と地域のつながりということも考えていかななくては行けなくて、教育委員会としては、よりよい学習環境ということで、小中一貫教育を行いたいということで、その中でもより効果があるのは施設一体型であるということで、このような案を提案させていただきました。新設校を作るには財源のこともありますので、色々なパターンを検討していかなければならないと考えています。

教育長：小学校を全部統合するとしたら、具体的にどうするか聞かせてください。

下町地区住民：ラディアンの裏に新しく作れば、図書館やラディアンのホールを有効に使えるのではないかとということと、花の丘公園も近くにあるので、未就学児は公園から小学生を見えることによって、小学校へ通う事への不安も減るのではないのでしょうか。一色小学校の 12 年後は、一クラスどのくらいの人数になっているのか教えてください。

不明：小学校に中学校を持ってくるというのは、地理的なことがあったからだとは思いますが、教室の広さもグラウンドの大きさも、学校設置基準が違うと思うので、施設だけを考えると、施設の改修が少なくなるのではないのでしょうか。部活で使ってしまうと、小学生の放課後の居場所が厳しくなってしまうので、西中は近くに町民グラウンドもプールもありますし、トータルで教育環境を考えると西中の方を残すという選択肢はないのでしょうか。

部長：教室の大きさの基準は同じです。黒板の高さや手洗い場などは低いので、改修をした方が中学生にとっては使いやすいです。

教育総務班長：二宮町内の 5 校の教室の大きさは 63～64 m²です。7.5m×7.5m もしくは、8m×8m 程度の広さです。

部長：二宮西中学校を使うというのは、1 つの考え方なのですが、小学校区に 1 つ学校を残すと考えていましたので、一色小学校区は 1 つしか学校がないので、40 通り以上案を検討したのですが、一色小学校を残すという案を考えました。西中は、校庭の面積が一番広いので、西中を残すというのも一つの案だとは思いますが。

指導主事：国立社会保障・人口問題研究所が出している数字によりますと、2030 年の一色小学校の人数ですが、198 人ということです。単純に 6 学年で割ると、1 クラスあたり 38 人です。今生まれた子の人数は町のデータからきちんとした数字を出すことが出来るのですが、社人研の人数には現実の人数とは誤差があります。一色小学校と山西小学校を統合したら、2030 年には 468 人になります。

下町地区住民：山西小学校を統合すると、270 名程増えるのが分かっているのに、どうしてすぐに統合しないのでしょうか。それは、一色小学校に通うお

子さんにとってのデメリットになるのではないのでしょうか。それが解決されないで、小中一貫教育を始めるメリットが二小学区でも分からないです。

教育長：最初、研究会の出発したときは、一色小学校の単級化解消ということで、山西小学校を統合するということで始めました。しかし、研究会を進めていく中で、山西小学区の文化を大切に欲しいということが出てきて、各小学校区に1校学校を残したいということで、山西小学校は単級化になっていないのに、一色小学校に統合するのは納得いかないという意見もあり、また今年度からコミュニティ・スクールを始めたこともあり、10年たったら一色小学校と山西小学校をコミュニティも一緒にして、コミュニティ・スクールの延長上に地域の方が一緒にバックアップしていけるようにということで、西中の力をお借りして、一色小学校をバックアップしていけたらいいと思い、今回のような案を作成しました。子どもの命を安全に守れるように、しっかりと調査を行いたいと考えています。

教育委員：一色小学校の小規模が気になっているという意見をいただきました。一色小学校の少人数規模が家庭的な雰囲気がいいという意見や、教員は子どものことを把握しやすく、接しやすくいいという意見もありました。けれども、子どものことを考えると、大勢の中で切磋琢磨していくことも必要だと思います。単級化については、教育委員会でも対策を講じる必要があると思います。子どもの人数を集めるのが難しいのであれば、大原学院では、テレビ会議を行ったりして、他地域や外国とつながる努力をしています。修学旅行に行く前には、行き先の子どもたちとテレビ会議で交流を図っています。不安があるのを手をこまねいていないで、出来る対策をするべきだと考えています。

その他全体的な質問

下町地区住民：今の学校を残す学校と残さない学校が出てくると、地域間の問題が出てくるのだと思います。ですから、新しい学校を建てるのがいいと思います。それまでの期間は、学校同志が交流する機会は出来ないのでしょうか。低学年のうちから他校と交流するのがいいのではないのでしょうか。必ずどこかの校舎があくと思うのですが、防災の面から体育館やグラウンドは残さなければいけないと思います。そういった空いた場所を子どもたちの遊び場みたいなものにして、集会所のようにしていただけたら地域が過疎化することはないと思います。スピーディーに議論を行っていただきたいと思います。

中里地区住民：東大跡地に学校を建ててほしいという意見もあると聞きましたが、自然を生かした遊び場としてはすごくいい所だと思います。そのような場所があるので、二宮に引っ越してくる方もいると思いますので、そこを二宮町の売りとして、残していただきたいです。子どもたちの他校との交流は、習い事などで接する機会がありますが、もっと小さいうちから交流する機会があるといいと思いますが、親に関しても同じだと思います。一色小学校はとてもいい学校なので、単級化していてすごく問題だと言われるのですが、それだけで駄目だと言わないで欲しいという思いもあります。一色小学校の保護者からすると、山西小学校のカラーというのは分かりませんので、親も他の学校はこういうカラーでというようなことを知る機会を統廃合する前から設けてほしいと思います。

山西小学校保護者：一色小学校はとてもいい学校だという話をよく聞いていますが、中にはなじめないお子さんもいるということを知っていて、アンケートでも、学区の再編についての意見が一番多かったのではないかと思います。学区を再編して単級化を解消するのがベストではないかという意見が一番多かったと思いますので、小中一貫までしなければいけないのかと思いました。